
第3期
相模原市緑区区民会議
報告書



相模原市緑区区民会議
平成28年7月

報告にあたって

区制を生かした市民協働によるまちづくりの実現のため設置された区民会議も、ここで第3期の任期が終了することとなりました。

第3期区民会議では、区民との協働によるまちづくりの指針として策定した「緑区区ビジョン」の推進に向け、「未来を拓く活性化検討小委員会」と「魅力ある地域コミュニティ検討小委員会」の2つの小委員会を設け、観光と定住をテーマに協議を行ってきました。小委員会では、地域を少しでも良くしたいという委員の皆様の思いから協議の場も当初の予定を超える回数に及びました。

小委員会で協議された内容は、この報告書の中で提案として区民の皆さんに提示させていただきます。この提案が区民の皆様が緑区について考えるきっかけとなり、緑区の活性化への一助になれば幸いです。

結びとして、このたびの報告書の策定にあたりまして、ご協力いただいた関係者の皆様をはじめ、熱心に議論を賜りました委員の皆様に対し、心よりお礼申し上げます。

平成28年7月

相模原市緑区区民会議
会長 保井 美樹

目 次

はじめに 1

区民会議の目的	1
緑区の区民会議	1
第3期区民会議開催状況	2
第3期区民会議委員名簿	3
第3期区民会議 審議経過イメージ図	4

緑区の現状と課題 5

緑区の現状	5
緑区の課題	7

観光振興による地域活性化に向けて（提案） 10

魅力ある地域コミュニティ形成に向けて（提案） 20

別添資料「子育てと住みやすい環境づくりに関するアンケート調査報告書」

次期区ビジョンの策定に向けて 30

はじめに

区民会議の目的

区民会議は、政令指定都市移行に伴い施行された区制の導入にあわせて、各区の課題やまちづくりの方向性について協議を行う場として設置された附属機関(注1)で、区域内のまちづくりに関する次のような事項について話し合ったり、提案したりする機関です。

【区民会議における協議事項の例】

市長より諮問される事項 区ビジョンの推進に関すること
その他区民会議の目的達成に必要な事項

(注1) 附属機関

附属機関は、法律や条例に基づき設置されるもので、市民や専門家の意見を行政に反映させるため、審査や調査などを行う機関のことです。

緑区の区民会議

緑区区民会議(以下、「区民会議」という。)の第1期においては、区の将来像や協働によるまちづくりの指針となる「区ビジョン」の策定に向け、市長からの諮問を受け、緑区の特色や課題、将来の方向性等について協議を重ね「緑区区ビジョン」として答申いたしました。

第2期(平成24年7月から平成26年7月まで)では、「緑区区ビジョン」で掲げた区のめざす将来像『地域の個性が輝き 活力あふれる交流のふるさと緑区』の実現に向け、テーマを設けて区ビジョンの推進方策について協議を行いました。

平成26年7月からスタートした第3期では、人口減少や少子高齢化の進行が予測される区の状況を勘案し、観光をテーマにした「未来を拓く活性化検討小委員会」と、定住をテーマにした「魅力ある地域コミュニティ検討小委員会」の2つの小委員会を設け、区ビジョンの推進に向けた具体的な方策について協議を行いました。

【未来を拓く活性化検討小委員会】

圏央道の開通や津久井広域道路の整備、リニア中央新幹線の神奈川県駅の設置など、緑区のポテンシャルが飛躍的に向上する中、区内に点在する観光資源を活用し、ネットワーク化を図ることによる地域活性化策などについて協議しました。

【魅力ある地域コミュニティ検討小委員会】

自治会加入率の低下や津久井地域の過疎化などが進む中、地域コミュニティの形成や地域の魅力づくりの観点から、若い世代や子育て世代の移住・定住促進に向けた方策などについて協議しました。

第3期区民会議開催状況

回次	開催月日	出席者数	傍聴者数	審 議 内 容
1	平成26年 8月19日	23人	0人	【全体会】区ビジョンについて 第3期の進め方について
2	11月 4日	16人	0人	【全体会】区内視察
3	12月10日	22人	0人	【全体会】第3期の審議テーマの検討について
4	平成27年 1月26日	21人	0人	【全体会】小委員会の設置について テーマ別の検討について
5	2月24日	21人	0人	【合同小委員会】 本市及び緑区の将来人口推計等について 各小委員会での検討
6	6月11日	20人	0人	【全体会】小委員会の検討テーマに関する事例紹介 各小委員会での意見交換
7	7月 7日	9人	1人	【魅力ある地域コミュニティ検討小委員会】 意見交換
8	9月 7日	10人	0人	【魅力ある地域コミュニティ検討小委員会】 意見交換
9	10月 5日	9人	0人	【未来を拓く活性化検討小委員会】 意見交換
10	10月28日	10人	0人	【魅力ある地域コミュニティ検討小委員会】 意見交換
11	11月 5日	12人	0人	【未来を拓く活性化検討小委員会】 意見交換
12	12月 8日	19人	1人	【全体会】各小委員会での意見交換 小委員会の経過報告
13	平成28年 2月12日	10人	0人	【魅力ある地域コミュニティ検討小委員会】 意見交換
14	3月17日	11人	0人	【未来を拓く活性化検討小委員会】 講演「緑区の観光振興策」 相模原インターチェンジ周辺新拠点まちづくり 事業について
15	3月29日	10人	0人	【魅力ある地域コミュニティ検討小委員会】 意見交換
16	5月 9日	9人	3人	【魅力ある地域コミュニティ検討小委員会】 提言書（素案）について 意見交換
17	5月12日	11人	1人	【未来を拓く活性化検討小委員会】 提言書（素案）について 意見交換
18	6月15日	21人	2人	【全体会】 第3期相模原市緑区区民会議報告書（案）について
合計		延264人	延 8人	

【開催回数】全体会：7回

未来を拓く活性化検討小委員会：4回

合同小委員会：1回

魅力ある地域コミュニティ検討小委員会：6回

第3期区民会議委員名簿

(順不同・敬称略)

氏名	所属等	備考
保井 美樹	学識経験者(法政大学)	会長
松井 望	学識経験者(首都大学東京)	副会長
小野沢 良雄	津久井地区まちづくり会議	副会長
草野 寛	相模原市自治会連合会	小委員会委員長
関 欣人	橋本地区まちづくり会議	
柳 信幸	橋本地区まちづくり会議	
大貫 君夫	大沢地区まちづくり会議	
萩原 偉史	大沢地区まちづくり会議	
山下 利麿	城山地区まちづくり会議	
宗田 真理子	城山地区まちづくり会議	
小澤 研二	津久井地区まちづくり会議	
澤塚 正史	相模湖地区まちづくり会議	
森久保 眞二	相模湖地区まちづくり会議	小委員会委員長
森川 哲郎	藤野地区まちづくり会議	
小池 和代	藤野地区まちづくり会議	
今井 俊昭	市社会福祉協議会	
鬼柳 修	市立小中学校PTA連絡協議会	
上原 泰久	相模原商工会議所	
小島 信幸	津久井地域商工会連絡協議会	
齋藤 邦雄	相模原市観光協会	
川崎 茜音	ForestNova	
高橋 実	城山スポーツ&カルチャークラブ めいぷる	
北澤 芳恵	公募委員	
渡辺 毅	公募委員	
片野 寿一	公募委員	

第3期区民会議委員(前任)

(順不同・敬称略)

八木 次夫	相模原市自治会連合会	
田中 勝年	橋本地区まちづくり会議	
水戸 隆	城山地区まちづくり会議	
小林 満	藤野地区まちづくり会議	

第3期区民会議 審議経過イメージ図

現状把握

区内視察

テーマ

緑区の資源を活用した
活性化策

魅力ある
住みやすいまちづくり

観光

定住

市からの情報提供

本市及び緑区の将来人口推計について

地域での取組などの事例紹介・情報提供

葉山島のお米づくりやガイド
ツアーなど、地域の特徴ある
観光資源を活用した取組
他市の観光事業を参考にした
桜美林大学名誉教授・相模原
市観光振興審議会会長の提案

藤野地区の「地域通貨よろづ
屋」の取組
大沢地区の「くすのき広場」
の取組

相模原インターチェンジ周辺
新拠点まちづくり事業について

アンケート調査の実施

観光振興による
地域活性化に向けて(提案)

魅力ある地域コミュニティ
形成に向けて(提案)

緑区の現状と課題

緑区の現状

1 概況

緑区は、区東部においては工業や商業、業務機能などが集積するとともに、区の西側は美しいやまなみや湖・河川など豊かな自然が広がる地域で、面積は253.8平方キロメートル、市域の77.2%を占める、本市の中で最も広い面積の区です。

橋本駅周辺は、鉄道や道路など広域的な交通の要衝となっており、市街地再開発事業などにより都市基盤が整備され、商業施設や高層住宅、文化施設が集積し、本市の中心市街地の一つとして発展してきました。また、交通利便性を生かして多くの工業が集積し、本市の内陸工業都市としての発展を支えてきました。

区の西側、津久井地域においては、山林や農地、湖、河川、里山など、自然豊かな水源地となっており、自然と調和したまちづくりが進められています。



2 交通

区東部の橋本地区は、JR 横浜線・相模線、京王相模原線をはじめ、国道 16 号、国道 129 号、国道 413 号など、広域交通の結節点をなしています。また、区内には、橋本地区、城山地区、津久井地区を結ぶ国道 413 号、相模湖地区から厚木方面を結ぶ国道 412 号、相模湖地区・藤野地区と都心や山梨方面を結ぶ JR 中央本線、中央自動車道、国道 20 号などが通り、交通の骨格をなしています。さらに、圏央道相模原インターチェンジ及び津久井広域道路の一部が開通したことにより、本地域の広域的なアクセスが向上し、周辺の活性化が期待されています。

2027 年（平成 39 年）には、リニア中央新幹線の神奈川県駅が橋本駅周辺に設置される予定であり、土地利用転換の可能性を含め、将来のまちづくりの発展性が非常に高くなるが見込まれます。



3 自然

区の西部に位置する津久井地域は、広大な森が水を育み、相模川や道志川などの清流、津久井湖、相模湖などの湖が水をたたえる、自然豊かな水源地です。

津久井地域の西部は、蛭ヶ岳（1673m）を最高峰に丹沢山塊からなる丹沢大山国定公園、北部は、陣馬山などからなる県立陣馬相模湖自然公園と、広大な森林が広がる美しい自然環境に恵まれています。

津久井地域ではこのような自然資源とともに、自然を生かした民間テーマパークが立地しているほか、小原宿本陣や県立藤野芸術の家などの歴史・文化資源等も点在しています。

区の東部、大沢地区では相模川の自然を生かし、上大島キャンプ場や相模川清流の里、相模川散策路が整備され、相模川や周辺の自然とのふれあいの場として、多くの市民に親しまれています。



1 観光を取り巻く課題

(1) 各地区の魅力的な資源が十分に活かされていない

区内の各地区には、例えば相模川や道志川といった清流、津久井湖や相模湖、宮ヶ瀬湖などの五つの湖、陣馬山や石老山などハイカーに人気の山々のほか、里地里山、キャンプ場、天然温泉など、多くの観光資源が点在しています。また、各地区の観光協会や商工会などにより、自然、歴史、芸術、伝統、文化などの多彩な地域資源を活用した様々なイベントや体験プログラムが実施されているなど、区内には魅力的な資源が豊富にあります。

その反面、緑区全体として捉えた場合、これらの観光資源やイベントについては他との連携、回遊性が希薄であり、集客力や情報発信力が十分に発揮されていないなど、魅力が分散されている状況があります。各地区の資源を有機的に活用し、緑区全体としての魅力を高めることが求められています。

(2) 緑区全体をPRするための核となる素材が明確ではない

区内には、様々な観光資源や地域資源、特産品が豊富にあります。

その一つひとつは、非常に魅力的であり、地域の方々をはじめ来訪者にも親しまれ、時としてメディアで取り上げられることにより、注目される場合もあります。

しかしながら、その一方では、「緑区といえばこれ」という、対外的にインパクトのある素材があるとは言い難いのではないのでしょうか。区外、市外に向け、緑区の魅力を継続的・効果的に発信するため、点在する地域資源の魅力を認識した上で、緑区全体をPRするための核や素材を明確にすることが求められています。

(3) 緑区を取り巻く交通網の状況の変化への対応

圏央道相模原インターチェンジや津久井広域道路の開通により、東名高速・中央自動車道等への利便性が向上し、高速道路等を利用した広域交通のポテンシャルが飛躍的に向上しました。また、リニア中央新幹線の神奈川県駅の設置が予定されている橋本駅周辺は、圏央道や鉄道（横浜線・相模線・京王線）が集中しており、今後、リニア中央新幹線の開通により、首都圏南西部全域と羽田空港や中部・近畿圏とのアクセスの飛躍的向上が図られ、首都圏を牽引する国際的な都市圏として発展していく可能性があります。

今後、こうした交通利便性の向上と中山間地域の豊かな自然を活用した取組を進めることにより、中山間地域と都市部が相互に補完し合いながら、緑区全体の活性化を図ることが求められています。

圏央道開通・相模原インターチェンジ周辺の拠点まちづくり



出典: 関東地方整備局HP



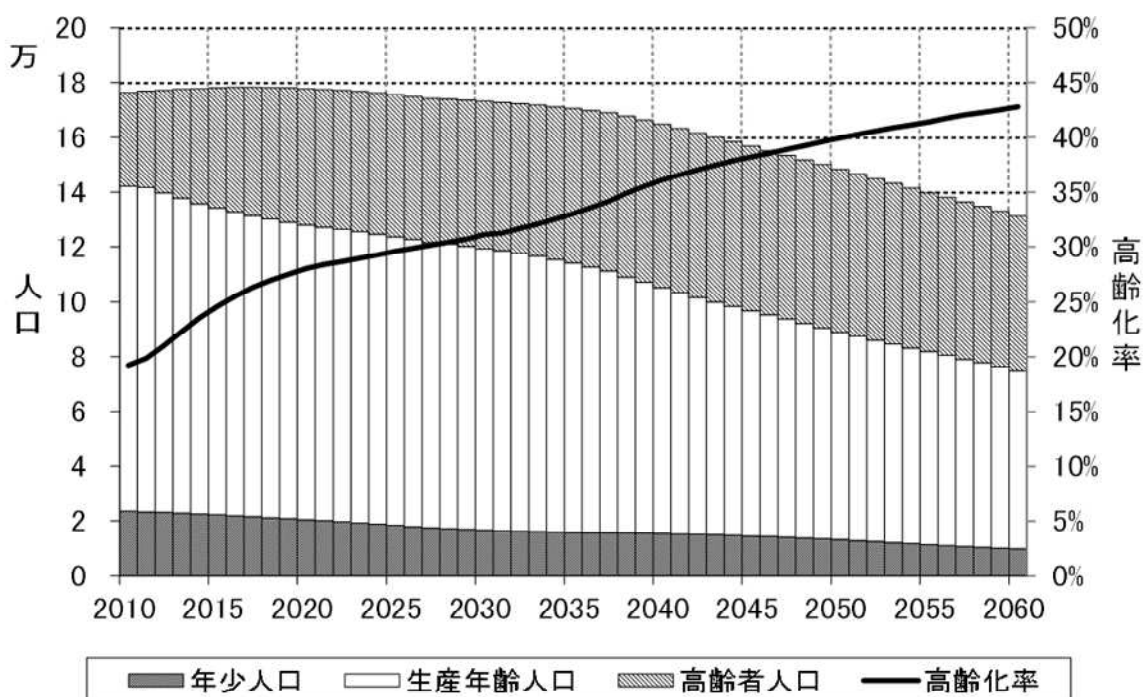
【圏央道・相模原 I C 周辺 上空】

2 地域を取り巻く課題

2015年国勢調査の結果（速報）では、緑区の人口が大幅に減少しているなど、緑区での少子高齢化・人口減少が進んでいる状況にあります。特に中山間地域を含む津久井地域の人口減少が顕著であり、今後こうした傾向がますます進行するものと推測される中、歯止めをかけることが急務となっています。

また、少子高齢化の進展により地域団体の高齢化をはじめ、人口の減少による空き家の増加、コミュニティの希薄化などの問題が顕在化してきており、区ビジョンで示す将来像「地域の個性が輝き 活力あふれる交流のふるさと緑区」の実現に向け、大きな課題となっています。

緑区の人口と高齢化率の推移



2015年国勢調査人口速報集計結果

地域	人口	平成22年～27年の人口増減	
		人数	率(%)
相模原市	720,914	3,399	0.5
緑区	173,710	-2,482	-1.4
中央区	270,021	3,039	1.1
南区	277,183	2,842	1.0

観光振興による 地域活性化に向けて（提案）

～ 「点(多彩な観光資源)」から「線(連携)」

そして、「面(緑区全体の活性化)」へ ～

平成28年7月

相模原市緑区区民会議
未来を拓く活性化検討小委員会

はじめに

緑区においては、多彩な観光資源や地域資源が持つ魅力を市内外に発信するとともに、観光によるまちづくりを進め、来訪者の増加による地域活性化、移住促進を図ることが喫緊の課題です。

今後、緑区区ビジョンに掲げた区のめざす将来像「地域の個性が輝き 活力あふれる交流のふるさと緑区」の実現に向け、行政・各種関係団体・民間事業者・区民が課題や目標を共有し、連携して取り組むことが必要です。

課題解決に向けた視点

少子高齢化・人口減少問題への対応を踏まえ、緑区における観光振興や地域コミュニティの維持・強化に向けた具体的な方策を検討するため、小委員会では次の7つの視点で議論を進めました。

1 観光資源の掘り起こし、再発見

新たな地域資源の掘り起こしや、既存の地域資源の磨き上げにより、地域の個性や魅力を発揮する観光資源化を図ることが重要であると考えます。

2 拠点づくりと地域間ネットワークの構築

点在する地域資源を有機的に結びつけるためには、施設整備だけでなく、その拠点となり得る資源を磨き上げ、または創出するとともに、人や情報の動きを含めたネットワークを構築することが重要であると考えます。

3 観光振興に係る基盤整備

観光の観点から地域活性化を図る上では、地域との協働によるソフト面の充実はもちろんのこと、道路や駐車場、公共交通、登山道や案内標識などハード面での整備も重要であると考えます。

4 効果的な情報発信

各観光協会等においては、地域単位での観光情報の収集や提供が行われていますが、緑区全体を捉えた中で、対外的にもインパクトのある効果的な情報発信の手法を検討するとともに、情報発信力の強化を図ることが重要であると考えます。

5 市・区としての一体的な体制・取組

地域資源が持つ魅力を最大限に活用するためには、市民、各種関連団体、行政等が連携し、一体的な体制を整備して取り組んでいくことが重要であると考えます。

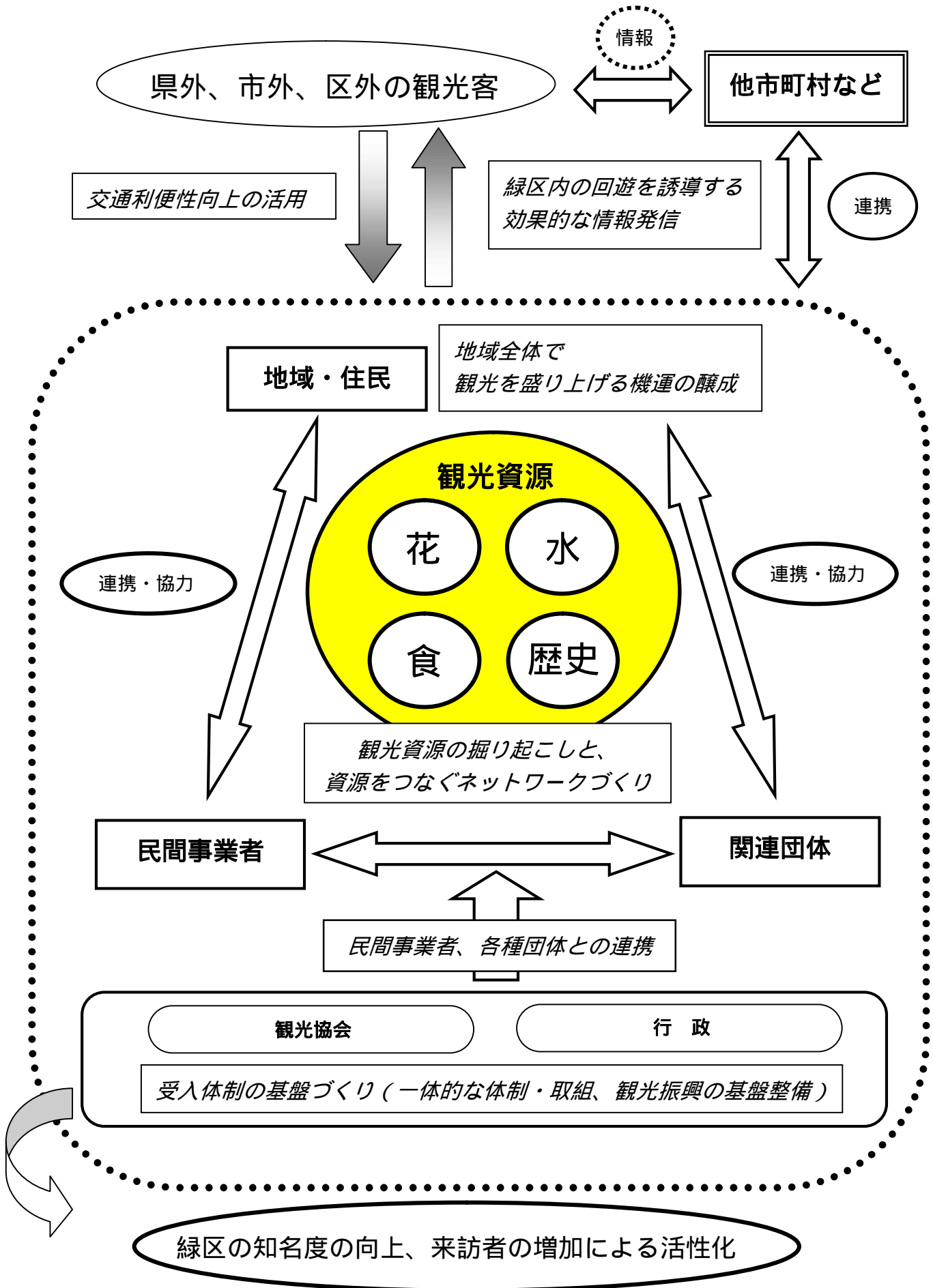
6 自治会などの地域コミュニティとの協働

魅力的な観光地では、地域住民による観光交流が活発に行われています。こうした地域との交流による魅力の向上を図るためには、自治会とのつながりや地域のコミュニティを活用することが重要であると考えます。

7 民間事業者との連携

広域的な情報発信や集客力の向上を図るためには、民間事業者が持つノウハウを活用することが効果的であり、民間事業者との連携を図ることが重要であると考えます。

観光資源の活用による地域活性化策の方向性（小委員会での議論）



課題解決策の提案(5つの戦略ポイント)

緑区区ビジョンの更なる推進を図るとともに、観光振興の観点から地域活性化を促進させるため、小委員会では次のとおり方策を提案いたします。

1 観光資源の掘り起こしと、資源をつなぐネットワークづくり

- 【戦略ポイント1】** 観光資源の絞り込み、
「核」となる4つテーマの構築 ~ 『花』・『水』・『食』・『歴史』 ~
- 【戦略ポイント2】** 既存イベントのブラッシュアップ、一体感の創出
取組の中心：行政、各観光協会、各商工会、各種団体

(1) 核となる素材の絞り込みと、テーマ性を持たせたネットワークの構築

フラワーツーリズム(「花」による魅力づけ)

緑区においては、季節に応じて多くの場所で様々な花を楽しむことができます。カタクリや桜、梅などの「花」をテーマに、各地域をルート化し区内の回遊性を高めることにより、家族連れや女性などの観光客の増加に繋がると考えられます。また、種まきや花摘みなどの体験観光と結びつけることがより効果的です。

ウォーターツーリズム(「水」による魅力づけ)

緑区は、神奈川県の水源地として知られ、水資源が豊かな地域です。城山湖、津久井湖、相模湖、奥相模湖、宮ヶ瀬湖といった五つの湖や、相模川や道志川など清流の魅力を発信するとともに、例えば、相模湖のカヌー、相模川や道志川でのラフティングなど、「水」を活用したレクリエーション・プログラムを提供することにより、若者を中心とした体験交流が深まります。

フードツーリズム(「食」による魅力づけ)

緑区においては、相模川や道志川の鮎、葉山島の米づくり、佐野川のお茶、津久井在来大豆、にごみうどん、かんこ焼きなど、「食」に関する素材も多数あります。年代、性別を問わず受け入れられる「食」をテーマとした体験観光を展開することにより、域内消費の拡大が期待されます。

ヒストリーツーリズム(「歴史」による魅力づけ)

緑区においては、小原宿本陣、甲州古道、津久井城址など歴史にまつわる地域資源が点在しています。また、地域には「獅子舞」や「お囃子」、「村芝居」などの伝統行事・文化が受け継がれ、古民家や古民具も残されています。こうした歴史資源を掘り起こすとともに、地域住民の案内によって交流を深めるガイドツアーを実施するなど、歴史をテーマに観光資源として結びつけることが効果的です。

(2) 既存イベントの活用による一体感の創出

例えば、橋本七夕まつりを津久井地域と合同で開催したり、各地区で行われているイベントの名称を工夫するなど、区内で点的に実施されているイベントについて相互に関連性を持たせ、一体感を創出することが効果的です。

2 観光・連携の基盤づくり

【戦略ポイント3】 観光の基盤づくり、連携の基盤づくり

取組の中心：行政、各観光協会、各商工会

(1) 観光の基盤づくり

観光地として来訪者の期待に応え、満足度の向上を図るためには、案内看板や観光トイレの設置、散策路・登山道の整備、バス交通や乗合タクシーなどによる観光資源間のアクセス性の向上といった一定の基盤整備を図ることが必要です。

また、圏央道や津久井広域道路などの交通網の拡大に対応するためには、例えば「道の駅」と同様の機能を有する駐車場の整備や、大規模な駐車場を設置し、そこを起点として区内を効果的に回遊するための基盤整備を行うことも効果的であると考えます。

なお、現在検討が進められている金原地域における新拠点まちづくり事業や、烏屋地域に設置が予定されているリニア中央新幹線関東車両基地においても、観光振興の視点を含めて、地域活性化に向け有効に活用することが重要です。

(2) 連携の基盤づくり

観光に係る情報提供など、観光振興の推進にあたっては、行政をはじめ、主に一般社団法人相模原市観光協会、大島観光協会、城山観光協会、津久井観光協会、一般社団法人相模湖観光協会、一般社団法人藤野観光協会が担っています。

しかしながら、一部では観光協会間の連携が図られている事業はあるものの、地区内での観光資源や地域資源の活用にとどまっている現状があります。

また、商工会においては、津久井地域の各地区商工会で構成する津久井地域商工会連絡協議会があり、情報共有は行われていますが、今後は、更なる連携も必要であると考えます。

区内に点在する観光資源や地域資源を結びつけ、点から線に、線から面へと、区内全体をコーディネートするためにも、各種団体が緊密な連携を図るなど、一体的な体制の整備が必要です。

3 緑区内の回遊を誘導する効果的な情報発信

【戦略ポイント4】<情報発信：戦略的PR、来訪者の誘導>

情報発信 全国へ向けた発信（インターネット、SNSなどの活用）

来訪者の誘導 相模原市内・近隣市・全国からの誘導

取組の中心：行政、各観光協会、各商工会

（1）他区・市外からの誘導

気軽に来訪してもらうためには、ターゲットを他区の住民に絞り、積極的なPRや回遊ルートの情報提供、体験型バスツアーの実施などにより、まずは他区からの来訪者を増加させることが効果的です。

また、知名度が顕著に上昇している高尾山の登山客をターゲットに、案内標識の設置や広域的な観光マップの作成配布などにより緑区へ誘導するとともに、区内の観光ルートを案内するなど、受入体制を整えることが重要です。

（2）季節に合わせた情報発信

年間を通じて鮮度が高い情報を発信していくことは、全国に向けて緑区の魅力をPRし、来訪者の誘導を図るうえで、極めて重要なことです。例えば、春には花、夏には水辺やキャンプ場、秋は紅葉、冬はイルミネーションといった旬の素材を絞り込み、ホームページやSNSを活用して、積極的に情報発信をしていくことが効果的です。

4 地域活性化に向けた推進体制

【戦略ポイント5】<推進体制：民間活力の活用、他市町村との連携、機運の醸成>

推進体制の強化 区民・各種団体との連携

民間活力（民間テーマパーク、旅行会社等）の活用

広域連携 相模原市・近隣市

近隣市町村（八王子市、山梨方面）全国自治体との広域連携（銀河連邦等）

取組の中心：行政、各観光協会、各商工会、民間事業者、各種団体、区民

（1）民間事業者、各種団体との連携

既存の観光資源はもとより、地域に埋もれている資源や魅力を掘り起こし、民間の視点での旅行商品開発・販売やイベント展開に繋げるとともに、民間事業者が持つ情報発信力を活用するなど、民間テーマパークや旅行会社といった民間事

業者との連携は不可欠です。

また、近年では、農産物の直売所が観光の観点からも大きな魅力となっているように、例えば緑区産の新鮮な野菜を売り込むなど、農業協同組合といった専門性を有する各種団体と連携することにより、新たな観光資源の創出も可能になると考えます。

(2) 地域全体で観光を盛り上げる機運の醸成

収益性の向上

観光事業の充実を図るためには、地域全体で消費拡大に取り組むことが重要です。そのためには、周辺商店街の活性化や空き店舗対策などと併せ、観光振興と商業振興の両輪で施策を検討するとともに、農林業、加工業、販売サービス業などの連携の下、観光の6次産業化()により付加価値を高め、収益性の向上を図る必要があります。

6次産業化：1次産業(生産)、2次産業(加工)、3次産業(サービス)までを一体的に取り組むこと。また、それにより新たな商品やサービスを生み出すこと。

地域住民の意欲の向上

地域住民においては、観光事業による経済効果を実感できることで、観光振興に対する意欲の高揚につながる側面もあります。例えば、地域住民自らが手芸品や加工品の販売を行い、収入を得ることができるようにするなど、やりがいと経済面の両立が可能となる手法を検討することが重要です。

人材の育成

地域住民自らが地域資源の魅力を確認し、観光資源を売り込むなど、地域全体がおもてなしの心で来訪者を迎える雰囲気づくりを行うとともに、そうした区民主体の取組をリードし、コーディネートする人材を育成することが重要です。

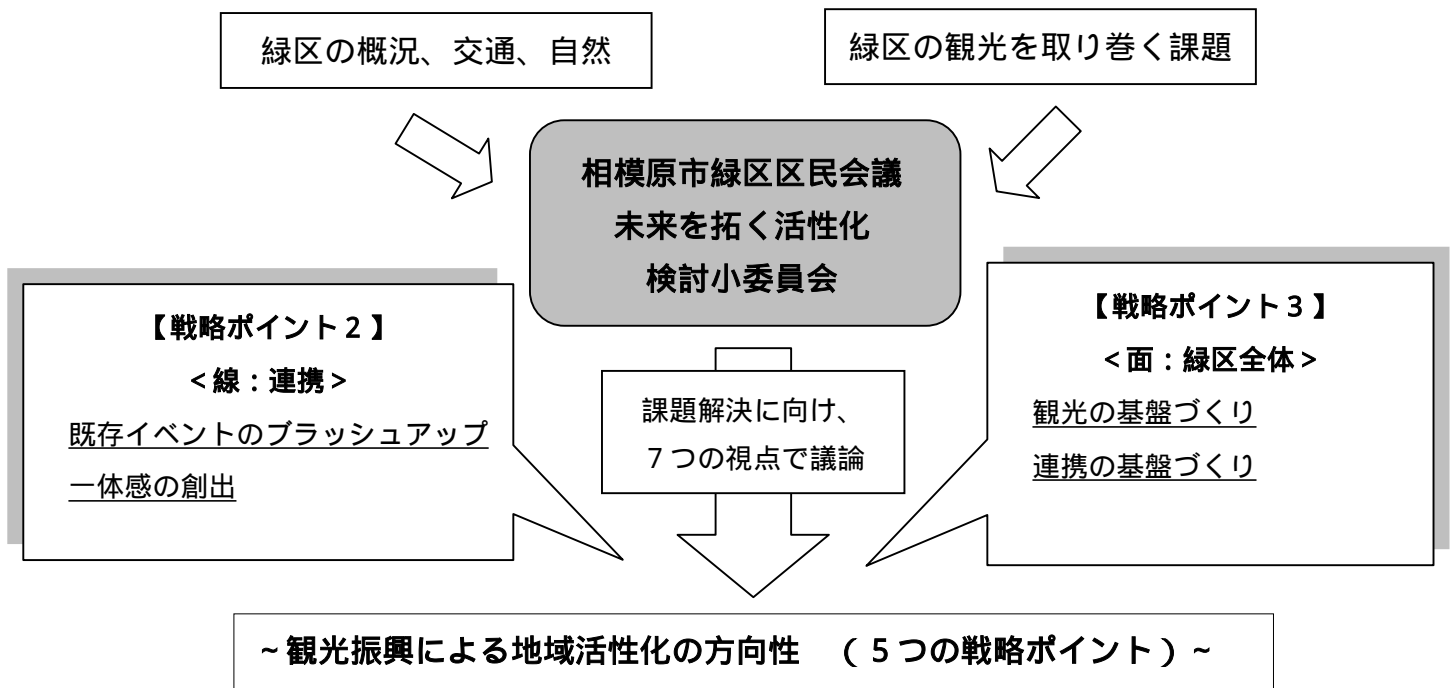
(3) 他市町村などとの連携

他市町村と連携することは、緑区の認知度の向上や来訪者の増加を図るために効果的な手段であります。

しかし、一方では、消費者が期待する価値観の多様化から、他の観光地との差別化を図らなければ、観光地として選択されずに埋没してしまうこととなります。

そのため、連携を図る上での核となる素材(例えば温泉、特産品など)を明確に定めるとともに、来訪者のニーズを捉えた「食」や「体験」といった付加価値を付けることが重要です。

課題解決に向けた提案の全体イメージ



【戦略ポイント1】＜点：多彩な観光資源＞
観光資源の絞り込み、「核」となる4つテーマの構築
～『花』・『水』・『食』・『歴史』～

【戦略ポイント4】＜情報発信：戦略的PR、来訪者の誘導＞

情報発信	全国へ向けた発信
来訪者の誘導	相模原市内・近隣市・全国からの誘導

【戦略ポイント5】＜推進体制：民間活力の活用、他市町村との連携、機運の醸成＞

推進体制の強化	区民・各種団体との連携
	民間活力（民間テーマパーク、旅行会社等）の活用
広域連携	相模原市・近隣市
	近隣市町村（八王子市、山梨方面）
	全国自治体との広域連携（銀河連邦等）

「点（多彩な観光資源）」から「線（連携）」、そして「面（緑区全体）」へ
～全国に発信、知名度向上、来訪者の増加等による緑区全体の活性化～

魅力ある地域コミュニティ 形成に向けて（提案）

～ できることから 一歩・一歩 ～

平成 2 8 年 7 月

相模原市緑区区民会議
魅力ある地域コミュニティ検討小委員会

はじめに

魅力ある地域コミュニティ形成に向けたこの提案を着実に推進していくためには、地域住民の自発的な意識が大切になります。地域に住む一人一人が「自分たちで解決できることは自分たちで取り組もう」「自分たちの手で住んでいる場所を良くしよう」という思いを持つことが魅力ある地域をつくる第一歩です。

地域と自治会、行政とが力を合わせ、思いの実現に向け、少しずつでも、できることから始めることが大変重要です。

課題解決に向けた視点

緑区の大きな課題である少子高齢化・人口減少への対応など、地域をとりまく課題を解決していくため、具体的な方策の検討として、小委員会では次の視点で議論を進めました。

1 自治会と連携した地域コミュニティの活性化

児童の登下校時の見守りや防犯パトロール、災害時の自主防災活動、お祭りやレクリエーション活動など、自治会は、地域に住む人々が日常生活において、その地域の課題を協働・連携し自ら解決して、より住みやすいまちづくりを推進するために重要な役割を担っています。

しかしながら、平成 19 年に 65.34%あった緑区の自治会加入率が、平成 27 年には 55.03%となるなど、加入率は年々減少しています。また、活動者も高齢化してきている状況にあります。

このため、小委員会では、自治会以外のコミュニティを活性化させることで、自治会の負担の軽減につながり、活性化したコミュニティと自治会とが連携することで、地域の活性化が図られると考えます。また、自治会を中心に他の団体と連携を図ることで、これまで単体ではできなかった活動についてもできるようになり、活性化の促進につながるものと考えます。

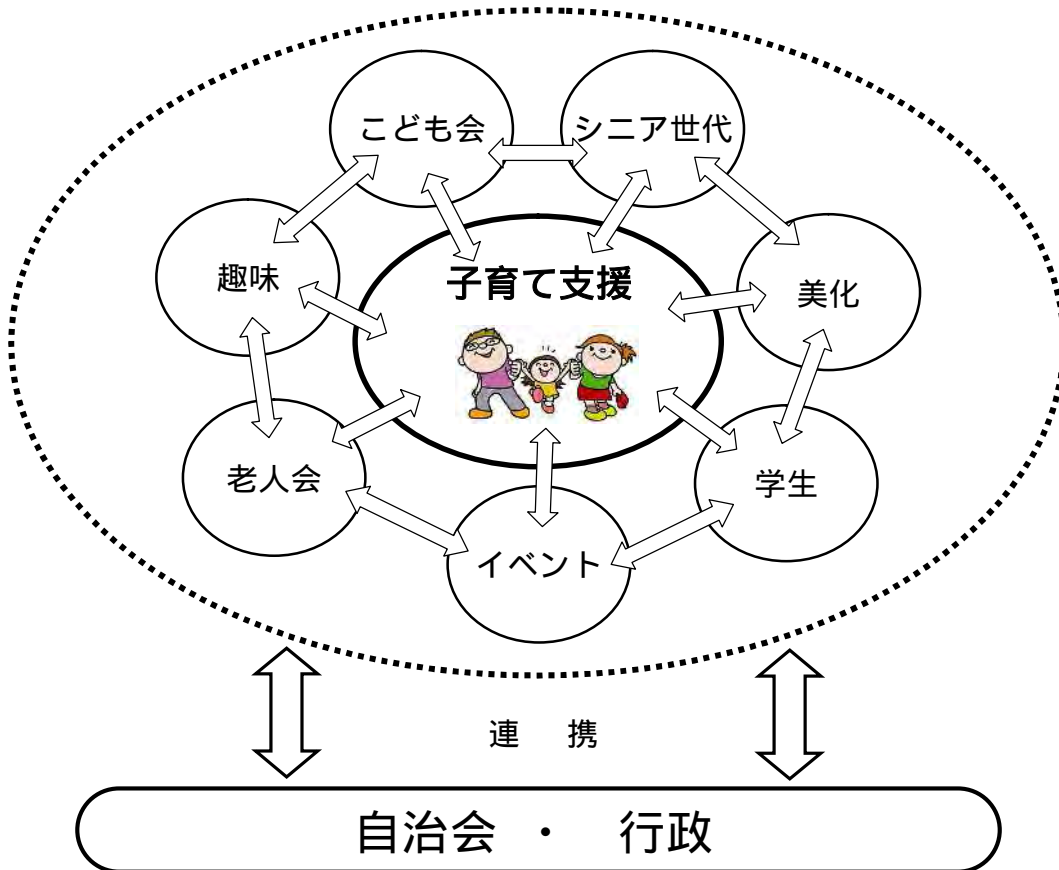
2 子育て支援による地域コミュニティの活性化

地域コミュニティの活性化にあたっては、高齢者の地域への関わりはもとより、次世代の担い手として若い世代の地域活動への参加が大変重要となります。

そのため、特に子どもに視点を置き、子育て世代同士の交流を通じた地域コミュニティの活性化や、地域で子育てを支援する仕組みづくりが必要であると考えます。

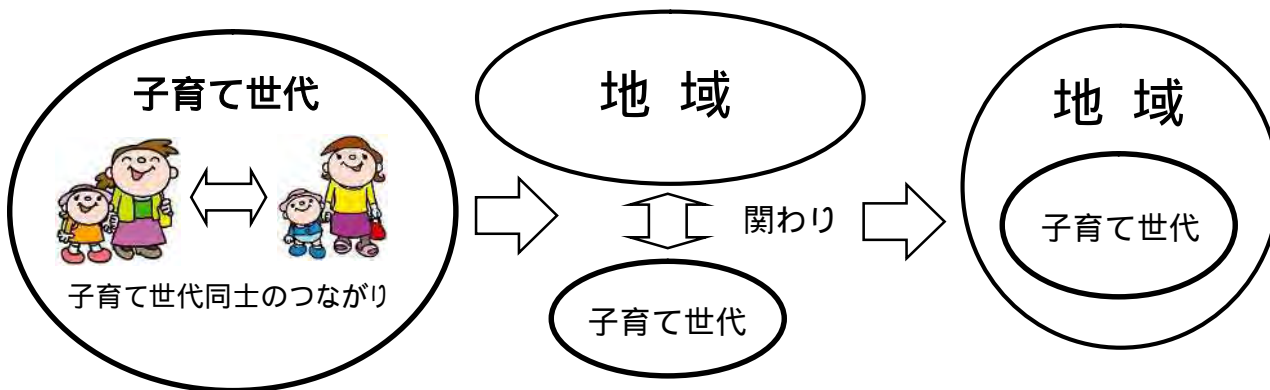
また、地域が子育て世代を支援することで、子育てしやすい環境を生み出し、移住・定住促進にもつながっていくものと考えます。

地域コミュニティ形成の方向性 (イメージ)



子育て世代へのアプローチ

地域コミュニティの強化



移住・定住の促進



現状分析

小委員会では、子育て世代のコミュニティづくり、子育て支援を通じた魅力ある地域づくりについて検討を進めるにあたり、子育て世代のニーズや地域との関わりの状況を把握するため、アンケート調査を実施しました。

【 調査概要 】

- (1) 調査対象 緑区内の小学校 1～3 年生及び就学前児童（年中・年長児、3 歳 6 か月児）の保護者

地 区	調査対象区分
橋 本	橋本小学校、二本松小学校、相原保育園、3 歳 6 か月児
大 沢	大沢小学校、大沢保育園、3 歳 6 か月児
城 山	広陵小学校、広田小学校、城山中央保育園、城山幼稚園、3 歳 6 か月児
津久井	串川小学校、津久井中央小学校、津久井中央保育園、3 歳 6 か月児
相模湖	桂北小学校、千木良小学校、相模湖こども園、3 歳 6 か月児
藤 野	藤野小学校、藤野南小学校、シュタイナー学園初等部、日連保育園、ふじの幼稚園、3 歳 6 か月児

- (2) 標 本 数 2 , 4 5 5 人

- (3) 調査期間 平成 2 7 年 1 1 月 3 0 日～平成 2 8 年 1 月 3 1 日

【 調査項目 】

- (1) 家族の状況
- (2) 子育ての環境
- (3) 定住性
- (4) 地域活動

【 調査結果 】

「子育てと住みやすい環境づくりに関するアンケート調査報告書」参照

課題解決策の提案(3つの戦略ポイント)

緑区区ビジョンの着実な推進を図るとともに、地域コミュニティの観点から地域活性化を促進させるため、小委員会では次のとおり方策を提案します。

1 子どもたちの居場所づくり

【戦略ポイント1】 自治会館の活用、学校の活用

取組の中心：自治会、行政

アンケート結果から、子どもの居場所を求める声が多くあることが分かりました。このことから、子どもが気軽に過ごせる場所を作ることが必要だと考え、次の2点について提案します。

アンケート調査結果（抜粋）

- ・子育てをされていて困ること2位
「安心して子どもを自由に遊ばせる場所がない」(44.9%)
- ・子どもをたくさん育てるために必要な環境3位
「子どもが安全に遊べる場の充実」(67.6%)
- ・子育てしやすい環境にないと思う理由1位
「近くで遊べる公園や広場が不足しているから」(62.3%)
- ・地域の方にしてほしいと思うこと2位
「平日に子どもが過ごせる場所を作ってほしい」(42.8%)
- ・自由意見1位
「子どもの遊び場に関する意見」(175件)

(1) 自治会館の活用

公園や子どもセンターなどの施設については、どの地域にもあるものではなく、新たに設置する場合には、多額な費用や時間を費やすこととなります。このため、どの地域にも歩ける距離にある自治会館の活用を提案します。

具体的には、現在使用時以外は施錠している自治会館については、常時開放し、誰でも気軽に立ち寄れる場所にする必要があると考えます。自治会館を開放することで、雨天時でも利用可能な、子どもたちの過ごせる身近な場所ができます。近所ということもあり、親も安心して送り出すことができるのではないかと考えます。

また、自治会館を開放することは、自治会にもメリットがあると考えます。自治会館を利用してもらうことで、自治会を身近に感じてもらい、自治会のPRに

もつながります。さらに、子どもだけでなく、誰でも立ち寄れる場所にするこ
とで、お年寄りの居場所にもなり、世代間交流の場としても活用できます。親同士
の交流の場や子育て相談の場など、幅広い用途としても活用でき、地域の拠点と
なることが期待できます。

その結果、自治会を中心に、地域のコミュニティが活性化されるようになると
考えます。

実施にあたっての課題等

自治会員以外の方の使用に抵抗を感じる自治会員や、事故があった場合の責任の所
在、使用上のルールなどの課題も想定されるため、行政と連携しながら、例えばモデ
ル地域として特定の地域が先行的に実施するなど、検討する必要があると思われま
す。

【 事例 1 くすのき広場 】

大沢地区の上九沢団地では、子どもたちの居場所づくりとして、団地住民有志で団
地内の公共スペースを利用し、「くすのき広場」を開設。毎月2回午後3時～7時(小
学生は午後5時まで)を開放し、
大学生や地域の方々の協力のもと、
遊びや勉強などができる場所として
提供しています。

毎回20人以上の子どもが集い、
賑わいを見せています。



【 事例 2 大沢こむこむ茶屋 】

顔見知りの関係を築くため、大沢地区社会福祉協議会では、気軽に集まれる居場所
として自治会館を自治会から借りて毎週水曜日に開放しています。

地区社会福祉協議会の方々が見守るなか、放課後には、多くの子どもたちが集まり、
宿題をやったり、ゲームをやったり、思い思いの時間を過ごします。



(2) 学校の活用

アンケートでは、子どもの遊び場の中で、特にボールの使用についての要望が多くありました。現在、区内の公園については、その多くが近隣への配慮や同じ公園内の利用者などへの配慮からボールの使用を制限しており、子どもたちが自由に遊べない状況にあります。

このため、子どもたちのボールを使用した遊び場として、小・中学校のグラウンドと体育館の活用を提案します。

実施にあたっての課題等

学校のグラウンドと体育館を開放することで、放課後や休日に子どもたちが自由にボールで遊べるようになると考えます。

現在、休日には、団体へ学校開放をしていますが、団体の利用がない場合には、子どもたちに開放し、自由に遊べるよう対応をとることが望まれます。

2 自治会活動等を通じたコミュニティづくり

【戦略ポイント2】 イベントの実施、ホームページ等 を活用した情報発信

取組の中心：自治会（行政は、必要に応じた支援）

若い世代が自治会活動へ参加してもらうためには、まずは、自治会の活動を知っていただくことが重要であると考えます。そこで、次の2点について提案します。

(1) イベントの実施

アンケート調査結果（抜粋）

アンケート結果から、子育て世代が「地域の方にしてほしいと思う」ことの上位に、

- ・「休日に親子で過ごせる場所をつくってほしい」(21.5%)
- ・「子ども関連イベントや行事を充実してほしい」(20.6%)がありました。

自治会では、これまで、あまり子ども向けのイベントを実施してこなかった状況があります。このことから自治会で、例えばハロウィンや豆まきなど、季節のイベントを実施することで、子どもたちに楽しんでもらうとともに、子どもを持つ世代同士の交流の機会を作る必要があるのではないかと考えました。

若い世代が自治会行事に参加することで、交流が生まれるだけでなく、自治会活動への参加の第一歩となり、ゆくゆくは活動の担い手になることも期待できます。また、地域に暮らす若い世代のことを知る機会にもなり、子育てに対する理解の向上にもつながるものと考えます。

(2) 市自治会連合会・ホームページ等を活用した情報発信

アンケート結果から、地域活動を知らないから活動しない方や、地域の情報を求めている方が多くいることが分かりました。このことから、若い世代へ向けての情報発信が必要と考えます。

若い世代の情報収集の手段として一般的なのがインターネットです。これまで、自治会情報の発信は、自治会報など紙媒体のものが主であったため、今後は、リニューアルした市自治会連合会・ホームページの活用や、スマートフォン利用者へ向けた情報発信などを積極的に進める必要があると考えます。

また、情報発信にあたっては、イベント等の告知だけではなく、当日の様も伝え、参加しやすい雰囲気を作ることも必要だと考えます。

地区名	橋本地区自治会連合会	事務局	経度役所橋本まちづくりセンター内
-----	------------	-----	------------------

3 住みやすい雰囲気づくり

【戦略ポイント3】 魅力ある地域づくり、移住・定住の促進
取組の中心：自治体、地域（行政は、必要に応じた支援）

訪れた方に地域に対して良い印象を持ってもらうことは、移住・定住を促進させるうえで、重要なことだと考えます。そこで、次の2点について提案します。

(1) 雰囲気づくり

地域コミュニティの活性化には、魅力ある地域としての雰囲気づくりが大切であり、特に、地域内のコミュニケーションが重要だと考えます。

しかし、近年地域であいさつを交わす光景を目にする機会が減っています。

アンケート調査結果（抜粋）

「地域の方にしてほしいと思うこと」の上位に

- ・「あいさつをしてほしい」(38.3%)

声を掛け合うことで、交流が生まれ、コミュニティの醸成にもつながります。災害が発生した際にもスムーズに助け合うことができ、また、防犯に対する効果も期待できます。

以前、橋本地区で実施したあいさつ運動が好評であったことから、自治会などで定期的にあいさつ運動を実施するなどして、あいさつを積極的にPRし、地域の方々に浸透させていく必要があります。

また、雰囲気づくりのためには、花を植える活動や清掃活動も大切だと考えます。来訪者は、あいさつを交わしたり、花を目にしたりすることで、住みやすいイメージを持ち、地域に対して好感をもつようになります。その結果、移住・定住促進にもつながるものと考えます。

(2) 安全・安心なまちづくり

アンケート調査結果（抜粋）

「地域の方にしてほしいと思うこと」の3位に

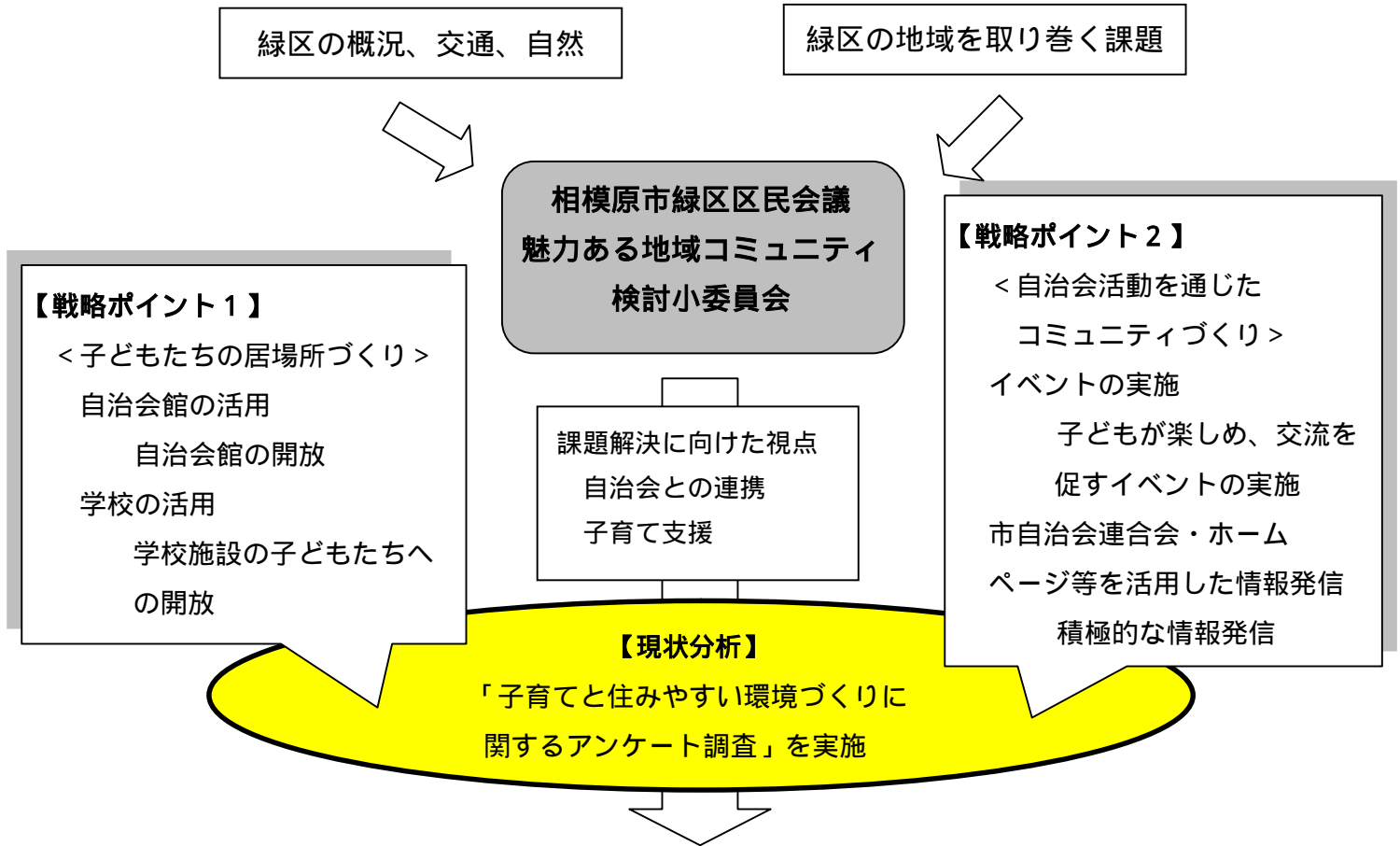
- ・「地域パトロール等防犯を充実してほしい」(41.4%)
- ・「子どもをたくさん育てるために必要な環境」の上位に
- ・「防犯体制、交通安全の充実」(56.0%) がありました。

子どもが被害者となる事件が後を絶たない中、子育て世代にとって防犯への意識が高いことがアンケート結果から伺うことができます。

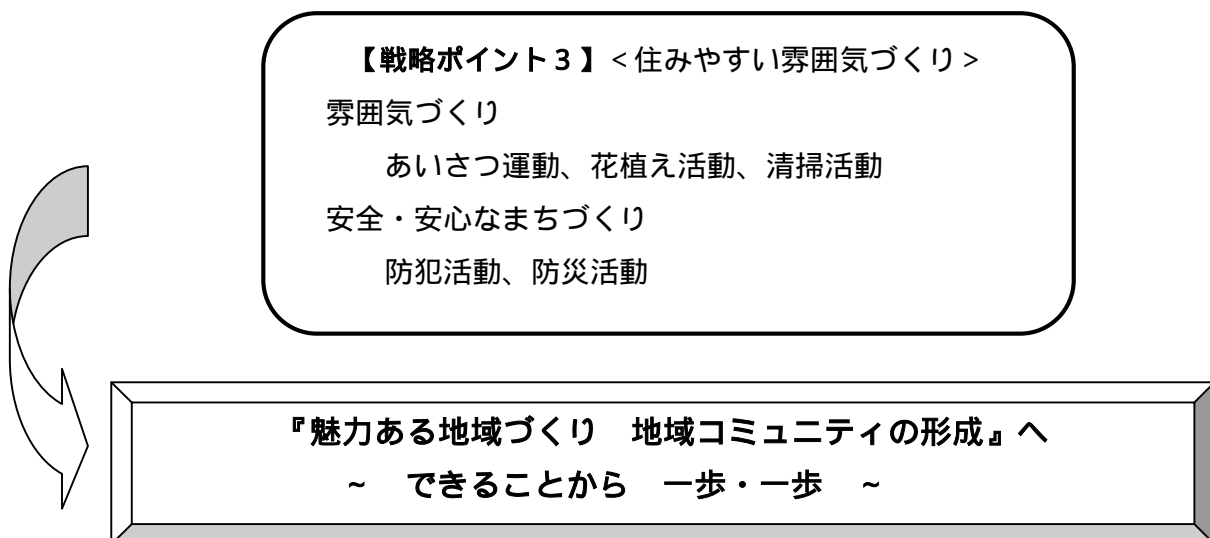
地域の安全・安心を守るためには、行政と地域が協力して取り組む必要がありますが、地域の安全・安心の要となるのは自治会だと考えます。児童の登下校時の見守りや防犯パトロール、災害時の自主防災活動を実施している自治会が中心となって、行政や各種団体と連携しながら地域を守っていく必要があると考えます。そのためには、地域で活動する団体と調整し、相互協力を図るとともに、自治会活動についても安全・安心に特化するなど、見直す検討も必要になると考えます。

提案の全体イメージ

～魅力ある地域コミュニティ形成の方向性（3つの戦略ポイント）～



～地域コミュニティによる地域活性化の方向性（3つの戦略ポイント）～



次期区ビジョンの策定に向けて

緑区に関連する国・本市の計画策定等

1 中山間地における人口減少への対応

中山間地域を含む津久井・相模湖・藤野地区においては、2060（平成72）年に、人口で現在の70%減、高齢化率は60%を超えると見込まれています。

若年層の流出、少子化傾向が強い状況等を考えると、2060（平成72）年には出生数がゼロとなるおそれもあることから、「相模原市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を踏まえ、中・長期的な視点に立った対応策が必要となります。

2 世界最大の経済集積圏 スーパーメガリージョンの形成プロジェクトを生かした活性化

リニア中央新幹線の整備を契機に、本市においてはリニア中央新幹線神奈川県駅（緑区橋本）周辺を中心とした経済集積圏 スーパーメガリージョンを形成していくことが、国の「首都圏広域地方計画」に位置づけられました。今後は、このことを生かし、緑区全体の活性化につなげていくことが必要となります。

緑区区ビジョンの着実な推進・次期区ビジョンの策定に向けた検討

緑区では、平成24年8月に「相模原市緑区区ビジョン」を策定し、これまで緑区区民会議においてご審議をいただきながら、「緑区区ビジョン」の着実な推進に取り組むとともに、地域の魅力を生かした「緑区らしさ」の創出に向け、区民の交流や連携を促進する取組などを実施し、区としての一体感の醸成に努めてまいりました。

特に平成27年度につきましては、区制施行5周年という節目の年として、区民との協働により区制施行5周年記念イベントなどを実施しました。

緑区区ビジョンの推進にあたっては、これまでの取組を継承しつつ、リニア中央新幹線の神奈川県駅の設置や、圏央道・相模原インターチェンジ周辺の新たな拠点整備、津久井広域道路の延伸など緑区を取り巻く環境の変化を的確に捉え、緑区全体の活性化につなげていくことが求められます。

このため、国の「首都圏広域地方計画」や本市の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に位置づけられたプロジェクトなど、緑区に関連する計画の進捗状況を踏まえ、緑区区民会議において次期区ビジョンの策定に向けた検討を進めます。

国の動向<緑区関連> 「まち・ひと・しごと創生総合戦略」(平成27年12月閣議決定)
「まち・ひと・しごと創生基本方針2016」(平成28年6月閣議決定)

- ・地域力の維持強化
人口減少に歯止めをかけ、集落生活圏における「小さな拠点(コンパクトビレッジ)」の形成や地域運営組織の設置を推進。多様な地域資源の活用や創意工夫により、集落の維持・活性化を図る。観光促進、子育て支援、移住・定住促進、農業の6次産業化などがテーマ。

「相模原市まち・ひと・しごと創生総合戦略」(平成28年2月策定)
~重点プロジェクト「中山間地域対策プロジェクト」~

- ・津久井地域の維持・活性化を図るため、生活・福祉サービス機能(医療・介護、福祉、教育、買物、公共交通等)を一定のエリアに集め、交通ターミナル機能の新設などにより、各地域を交通ネットワーク等で結ぶ「小さな拠点(コンパクトビレッジ)」の形成について検討。
- ・民間テーマパーク等と連携した観光拠点の形成、観光交流の促進等。
- ・地域コミュニティづくり、地域力の維持強化に向けた新たな担い手の確保、移住・定住促進等。



相模原市緑区区民会議 (第3期) ... 平成26年7月~平成28年7月

平成26年7月からスタートした緑区区民会議(第3期)では、人口減少や少子高齢化が進行する区の状態を勘案し、観光をテーマにした「未来を拓く活性化検討小委員会」と、定住をテーマとした「魅力ある地域コミュニティ検討小委員会」の2つの小委員会を設置し、区ビジョンの推進に向けた具体的な方策について協議を行い、報告書の取りまとめを行う。

- 1 未来を拓く活性化検討小委員会(5つの戦略ポイント)
観光振興による地域活性化の方向性
 - ・戦略 観光資源の絞り込み、「核」となる4つのテーマの構築 『花』『水』『食』『歴史』
 - ・戦略 既存イベントのブラッシュアップ、一体感の創出
 - ・戦略 観光基盤づくり、連携基盤づくり
 - ・戦略 全国に向けた情報発信、全国からの来訪者の誘導
 - ・戦略 連携体制の強化(民間テーマパーク等民間活力の活用)
広域連携の強化(隣接する八王子市・山梨方面自治体、全国自治体として銀河連邦等)
- 2 魅力ある地域コミュニティ検討小委員会(3つの戦略ポイント)
 - ・戦略 子どもたちの居場所づくり 自治会館の活用、学校の活用
 - ・戦略 自治会活動等を通じたコミュニティづくり
イベントの実施、市自治会連合会・ホームページ等を活用した情報発信
 - ・戦略 住みやすい雰囲気づくり 魅力ある地域づくり、移住・定住の促進

相模原市緑区区民会議 (第4期) ... 平成28年7月~平成30年7月

国の「首都圏広域地方計画」や本市の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に位置づけられたプロジェクトの推進を踏まえ、次期区ビジョンの策定に向け検討を行う。

国の動向<緑区関連> 首都圏広域地方計画(平成28年3月国土交通大臣決定)
~首都圏の将来を決する「運命の10年」~

- ・平成27年8月に閣議決定された「国土形成計画(全国計画)」を受け、平成28年3月「首都圏広域地方計画」が国土交通省・大臣決定。
- ・2025年(平成35年)までの概ね10年を計画期間とし、首都圏の将来を決する「運命の10年」と位置付ける。
- ・この10年の間、2020年(平成31年)に、東京オリンピック・パラリンピックが開催され、2027年(平成37年)には、リニア中央新幹線が開通し、橋本駅周辺に新駅が設置される予定。

【スーパー・メガリージョンの形成プロジェクト】
~リニア中央新幹線の整備を契機とした世界最大の経済集積圏~

- ・世界に先駆けて「リニア中央新幹線」を整備することで、総人口6,000万人規模の三大都市圏(首都圏、名古屋圏、大阪圏)が67分つながり、世界最大の経済集積圏(スーパー・メガリージョン)を形成。

【首都圏南西部国際都市群の創出プロジェクト】
~リニア中央新幹線駅(橋本駅周辺)を中心とした「内陸型国際ゲートウェイ」の整備促進~

- ・リニア中央新幹線の神奈川県駅(橋本駅)周辺は、圏央道や鉄道(JR横浜線・相模線、京王線など)が集中・結節。
- ・リニア中央新幹線の開通で、相模原だけでなく首都圏南西部全域と羽田空港や中部・近畿圏とのアクセスが飛躍的に向上。
- ・首都圏南西部エリアには、多数の大学や研究機関などが集積。これらとの連携を通じて、新たな産業集積や、立地特性を活かした業務機能等の集積が進み、首都圏を牽引する国際的な都市圏として発展。
- ・相模原台地は、地盤の良い洪積台地に位置。液状化や津波による影響がないことに加え、圏央道の整備により、道路ネットワークとの相乗効果で、東北・北陸・関西方面等のアクセス性が飛躍的に向上。
- ・厚木航空基地や立川広域防災基地との連携などにより、首都直下地震等の災害時の拠点整備を強化することで、首都圏のバックアップ機能を担う。上記の機能を有するエリアを「首都圏南西部国際都市群()」として位置づけ、首都圏の新しい拠点形成を図る。

「首都圏南西部国際都市群」...周辺自治体名(人口)

・相模原市(72.4万人)	・日野市(18.3万人)
・八王子市(56.3万人)	・立川市(17.9万人)
・町田市(42.7万人)	・多摩市(14.8万人)
・厚木市(22.5万人)	・青梅市(13.7万人)
・海老名市(12.9万人)	・瑞穂町(3.4万人)
合計人口・約280万人の都市群を形成。	

第3期相模原市緑区区民会議報告書

発行 平成28年7月
相模原市緑区区民会議
編集 相模原市緑区役所区政策課
所在地 〒252-5177
相模原市緑区西橋本5-3-21 緑区合同庁舎内
電話 042-775-8802 FAX 042-700-7002
Eメール g-kuseisaku@city.sagamihara.kanagawa.jp



緑区イメージキャラクター
ミウル

